

受益者の皆様へ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。
さて、「三重県応援・債券ファンド（1年決算型）」は、このたび、第9期の決算を行いました。

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、実質的にアジア・オセアニア地域および国内の債券に投資し、安定した収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

第9期末(2023年1月20日)

基準価額	10,980円
純資産総額	110百万円
第9期	
騰落率	0.9%
分配金(税引前)合計	0円

(注) 騰落率は分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、岡三アセットマネジメントのホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>
ホームページのファンド情報から当ファンドのファンド名称を検索することにより、運用報告書(全体版)を閲覧およびダウンロードすることができます。

三重県応援・債券ファンド (1年決算型)

追加型投信／内外／債券

作成対象期間：2022年1月21日～2023年1月20日

交付運用報告書

第9期(決算日2023年1月20日)

 **岡三アセットマネジメント**

〒104-0031 東京都中央区京橋2-2-1

お問い合わせは弊社営業部 セールスサポートグループへ
フリーダイヤル ☎0120-048-214 (営業日の9:00~17:00)

[ホームページ]

<https://www.okasan-am.jp>

※アクセスにかかる通信料はお客様のご負担となります。

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2022年1月21日～2023年1月20日)



期首：10,878円

期末：10,980円 (既払分配金(税引前)：0円)

騰落率：0.9% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、期首(2022年1月20日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドの主要投資対象ファンドにおける主なプラス要因およびマイナス要因は以下の通りです。

(主なプラス要因)

○アジア・ニュージーランド債券マザーファンド

- ・保有債券の利息収入を獲得したことがプラスに寄与しました。
- ・投資通貨が対円で上昇したことがプラスに寄与しました。

○三重県関連債券マザーファンド

- ・保有債券の利息収入を獲得したことがプラスに寄与しました。

○フランクリン・テンプレートン・オーストラリア債券ファンド(適格機関投資家専用)

- ・保有債券の利息収入を獲得したことがプラスに寄与しました。
- ・オーストラリアドルが対円で上昇したことがプラスに寄与しました。

(主なマイナス要因)

○アジア・ニュージーランド債券マザーファンド

- ・ニュージーランドやインドネシアなどの債券利回りが上昇し、保有債券の価格が下落したことがマイナスに影響しました。

○三重県関連債券マザーファンド

- ・保有債券の利回りが上昇し、価格が下落したことがマイナスに影響しました。

○フランクリン・テンプレートン・オーストラリア債券ファンド（適格機関投資家専用）

- ・オーストラリアの債券利回りが上昇し、保有債券の価格が下落したことがマイナスに影響しました。

※当ファンドの投資対象とする投資信託証券のファンド名称が2022年8月1日より変更となりました。詳細につきましては、後述の「お知らせ」をご覧ください。

1万口当たりの費用明細

(2022年1月21日～2023年1月20日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	134	1.199	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(61)	(0.550)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(68)	(0.605)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(5)	(0.044)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	3	0.024	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(1)	(0.011)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(2)	(0.013)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	その他は、金銭信託支払手数料等
合 計	137	1.223	
期中の平均基準価額は、11,172円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

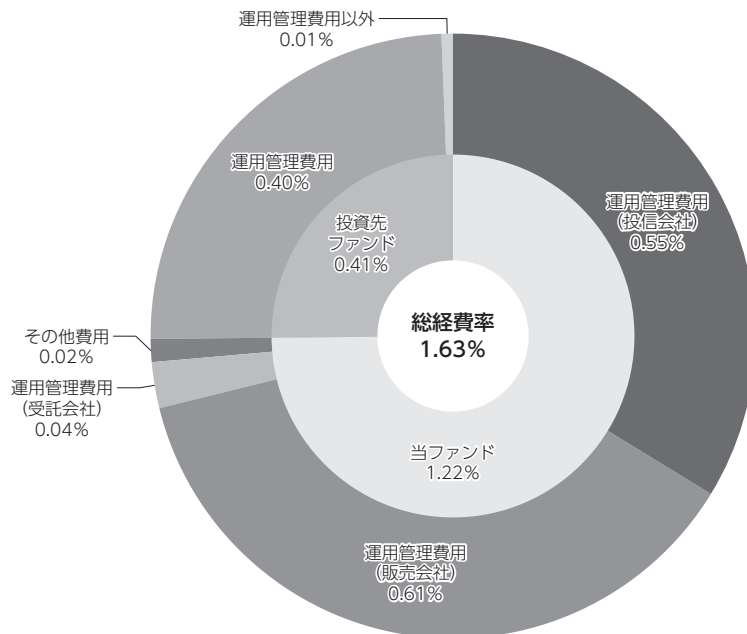
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.63%です。



(単位: %)

総経費率(①+②+③)	1.63
①当ファンドの費用の比率	1.22
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.40
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.01

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2018年1月22日～2023年1月20日)



(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、2018年1月22日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2018年1月22日 期初	2019年1月21日 決算日	2020年1月20日 決算日	2021年1月20日 決算日	2022年1月20日 決算日	2023年1月20日 決算日
基準価額 (円)	10,856	10,074	10,429	11,039	10,878	10,980
期間分配金合計(税引前) (円)	-	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	-	△ 7.2	3.5	5.8	△ 1.5	0.9
純資産総額 (百万円)	79	98	131	83	37	110

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注) 騰落率は1年前の決算当日との比較です。

(注) 当ファンドは、特定の指数を上回るまたは連動する成果を目指した運用を行っておりません。そのため、特定のベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

投資環境

(2022年1月21日～2023年1月20日)

(債券市場)

債券市場では、アジア・オセアニア地域の債券利回りが概ね上昇（価格は下落）しました。オーストラリア債券市場は利回りが上昇しました。資源価格の上昇や堅調な経済指標などを背景に豪州準備銀行（中央銀行、RBA）が利上げを開始し、その後も急ピッチな政策金利の引き上げを継続したことなどから利回りは上昇しました。しかしその後は、RBAが利上げ幅を縮小したことや、世界的にインフレ鈍化への期待が広がったことなどから、利回りは上昇幅を縮小させました。

国内債券市場では、世界的なインフレ高進を受けて10年国債利回りには上昇圧力が掛かり、2022年3月下旬にかけて日銀の長期金利誘導目標の上限目安とされる0.25%へ上昇しました。ただ、日銀が指定の利回りで国債を連日無制限に買入れる連続指し値オペを初めて実施したことや、幅広い年限の債券を買入れる臨時オペを行うなど日銀の金利上昇を抑制する姿勢が示されたことから、10年国債利回りの上昇に歯止めが掛かりました。その後は、世界各国の中央銀行がインフレ抑制を背景に金融政策の引き締めを急ぐ姿勢を示す一方、日銀は金融緩和政策を維持したことから、長期金利誘導目標の上限近辺で一進一退の推移となりました。しかし、日銀が12月の金融政策決定会合において、市場参加者の予想に反し、長期金利の変動幅を現状の±0.25%程度から±0.50%程度に拡大するなど長短金利操作（YCC、イールドカーブ・コントロール）を一部修正したことから、10年国債利回りは急上昇しました。

(為替市場)

為替市場では、アジア・オセアニア地域の通貨が対円で概ね上昇しました。オーストラリアドルは対円で上昇しました。オーストラリアではRBAが政策金利の引き上げを継続した一方で、日本では日銀が大規模な金融緩和政策を維持する方針を示すなど、日本とオーストラリアの金融政策の方向性の違いが意識されたことなどから、オーストラリアドルは対円で上昇する展開となりました。しかしその後は、RBAによる利上げペースが減速したことや、日銀による大規模な金融緩和政策の一部修正や更なる修正観測が浮上したことから、オーストラリアドルは対円での上昇幅を縮小させました。

当ファンドのポートフォリオ

(2022年1月21日～2023年1月20日)

<三重県応援・債券ファンド（1年決算型）>

「アジア・ニュージーランド債券マザーファンド」と「三重県関連債券マザーファンド」の合計で20%程度、「フランクリン・テンプレトン・オーストラリア債券ファンド（適格機関投資家専用）」を80%程度組み入れて運用を行いました。

○アジア・ニュージーランド債券マザーファンド**(債券組入比率)**

当期間を通じて、高位の組入比率を維持しました。

(通貨別投資比率)

インドネシア、ニュージーランド、マレーシア、タイの通貨に投資を行いました。また、ニュージーランドドル、タイバーツの比率を引き上げる一方、インドネシアルピアの比率を引き下げました。

(国別投資比率および年限別投資配分)

インドネシア、ニュージーランド、マレーシア、タイの国債に投資を行いました。また、ニュージーランド国債、タイ国債の比率を引き上げる一方、インドネシア国債の比率を引き下げました。

○三重県関連債券マザーファンド

(債券組入比率)

当期間を通じて、高位の組入比率を維持しました。

(債券別投資比率)

主に、三重県債に投資しました。

○フランクリン・テンプルトン・オーストラリア債券ファンド（適格機関投資家専用）

(債券組入比率)

当期間を通じて、高位の組入比率を維持しました。

(債券別投資比率)

オーストラリアドル建ての国債、州政府債、国際機関債、社債、モーゲージ証券および資産担保証券などに投資しました。当期においては、金融債、リート・セクター等を中心とした社債の組入比率を引き続き高位に保ちました。金融債については、大手金融機関が発行する流動性・信用力が相対的に高い債券を中心に組み入れました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2022年1月21日～2023年1月20日)

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載しておりません。

分配金

(2022年1月21日～2023年1月20日)

分配金額は、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案のうえ決定します。当期間におきましては、委託会社の判断により分配を行いませんでした。なお、収益分配に充てなかった留保益につきましては、運用の基本方針と同一の運用を行ってまいります。

(単位:円、1万口当たり・税引前)

項 目	第9期
	2022年1月21日～ 2023年1月20日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	6,373

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税引前)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

(投資環境)

アジア・オセアニア地域の債券市場は、米国でインフレの鈍化傾向が鮮明となり、米国を含む先進国の中央銀行が利上げピッチを緩めているほか、これまでの性急な金融引き締めが世界経済に影響を落とし始めていることから、同地域の債券利回りは低下しやすいと考えます。オーストラリア債券市場については、RBAが2022年12月の理事会において一段の利上げを予測する一方、先行きの金融政策に関するガイダンスを修正し、今後の利上げ休止が近づいている可能性を示唆していることから、債券利回りは概ねレンジ内での推移になると考えます。

国内債券市場は、10年国債利回りが不安定な相場展開になると見ています。日銀がYCCの一部修正を行い、10年国債利回りに上昇圧力が残っているものの、日銀が指し値オペや共通担保資金供給オペを行っていることから、10年国債利回りは日銀が新たに設定した上限金利の0.5%近辺で推移すると見ています。しかし、2023年4月の日銀新総裁就任以降、YCCの再修正または撤廃など、金融政策の変更が実施された場合は、債券市場の変動率が高まる可能性が高く、10年国債利回りは上下に大きく振れる場面も想定されます。

為替市場については、中国が「ゼロコロナ」政策の転換に踏み切ったことで同国経済の復調が期待される中、中国景気の影響を受けやすいアジア・オセアニア地域の通貨は対円で堅調な展開になると考えます。オーストラリアドルについては、日銀の今後の金融政策のスタンスには注意が必要なものの、多様かつ豊富な資源を有するオーストラリアは中国の政策転換の恩恵を享受しやすいと考えられ、オーストラリアドルは対円で底堅く推移すると考えます。

(運用方針)

<三重県応援・債券ファンド（1年決算型）>

「アジア・ニュージーランド債券マザーファンド」、「三重県関連債券マザーファンド」、「フランクリン・templton・オーストラリア債券ファンド（適格機関投資家専用）」の各投資信託証券の組入比率の合計を高位に保つことを基本とします。当面は、「フランクリン・templton・オーストラリア債券ファンド（適格機関投資家専用）」の比率を「三重県関連債券マザーファンド」、「アジア・ニュージーランド債券マザーファンド」に比べて高めにする方針です。

○アジア・ニュージーランド債券マザーファンド

各国の金利水準を重視し、為替市場や債券市場の見通し、市場流動性等を総合的に勘案して国別投資比率、デュレーション（利回りが変動した場合の債券価格変動性）を決定する方針です。具体的には、米金利上昇が和らいだことなどを背景に相対的に高い金利妙味が意識され、海外からの資金流入が見込まれるインドネシア国債の投資比率を高位に維持するほか、足元では中国政府が「ゼロコロナ」政策を事実上撤廃したことを受け、中国からの観光客増が見込まれるタイの投資比率を引き上げる方針です。デュレーションについては投資各国の中央銀行による利上げは打ち止めが近づいているとみており、徐々に長期化することを基本方針とします。

○三重県関連債券マザーファンド

三重県に関わりが深い企業等の発行する社債、および三重県の自治体の発行する公債に投資する方針です。ただし、当該銘柄にかかる流動性、発行総額等の状況によっては国債に投資する方針です。当面は主に三重県債に投資する方針です。

○フランクリン・templton・オーストラリア債券ファンド（適格機関投資家専用）

オーストラリアドル建ての国債、州政府債、国際機関債、社債、モーゲージ証券および資産担保証券等を主要投資対象として運用を行い、当面は社債の比率を高め維持するとともに、市場動向を睨みながらデュレーションを調整する方針です。

お知らせ

- ・「三重県応援・債券ファンド（毎月決算型）」「三重県応援・債券ファンド（1年決算型）」は、ファンドから収受した信託報酬の中から、日々の投資信託財産の純資産総額に年率0.15%を乗じて得た額を、三重県の明日につながる次世代育成、社会福祉向上、環境保護等に関連した取組みおよび施設等に寄附を行うことにしております。

この方針に則り、2022年2月に三重県下の保育所等408施設に絵本各8冊、総数3,264冊、両ファンド合計で3,657,720円の寄附を行いました。

なお、当ファンドの期末における寄附原資の金額は81,455円となっております。

- ・投資対象ファンドの運用会社からファンド名称変更の通知があったため、投資信託約款の変更を行いました。（実施日：2022年8月1日）

投資対象ファンドの名称は以下のとおり変更しました。

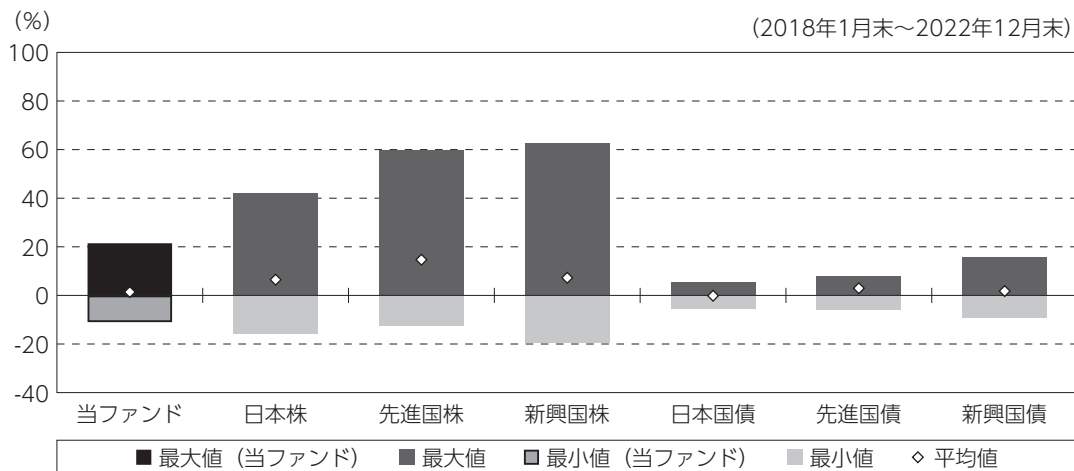
約款変更前の投資対象ファンドの名称	約款変更後の投資対象ファンドの名称
LM・オーストラリア債券ファンド（適格機関投資家専用）	フランクリン・templton・オーストラリア債券ファンド（適格機関投資家専用）

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券	
信託期間	2014年1月21日から、原則として無期限です。	
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、実質的にアジア・オセアニア地域および国内の債券に投資し、安定した収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行います。 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。	
主要投資対象	当ファンド	アジア・ニュージーランド債券マザーファンド、三重県関連債券マザーファンドおよびフランクリン・templton・オーストラリア債券ファンド（適格機関投資家専用）を主要投資対象とします。
	アジア・ニュージーランド債券マザーファンド	アジア諸国・ニュージーランドの現地通貨建ソブリン債等を主要投資対象とします。
	三重県関連債券マザーファンド	内外の公社債を主要投資対象とします。
	フランクリン・templton・オーストラリア債券ファンド（適格機関投資家専用）	豪ドル建の公社債を主要投資対象とします。
運用方法	各投資信託証券の組入比率は、投資対象ファンドの収益性、投資対象国の債券市場の利回り水準と流動性、金利および為替動向等を勘案して決定します。なお組入比率の合計は高位を保つことを基本とします。	
分配方針	毎年1月20日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき、収益分配を行います。 分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 繰越分を含めた配当等収益には、マザーファンドの配当等収益のうち、投資信託財産に帰属すべき配当等収益を含むものとします。 分配金額は、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案のうえ決定します。分配可能額が少額の場合や基準価額水準によっては、収益分配を行わないことがあります。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	21.5	42.1	59.8	62.7	5.4	7.9	15.7
最小値	△ 11.0	△ 16.0	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 9.4
平均値	1.4	6.5	14.7	7.3	△ 0.1	2.9	1.8

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2018年1月から2022年12月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA - BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

※各指数についての説明は、最終ページの「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

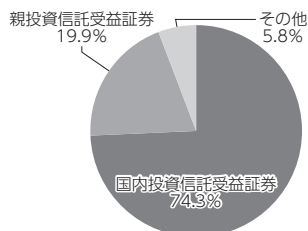
組入資産の内容

(2023年1月20日現在)

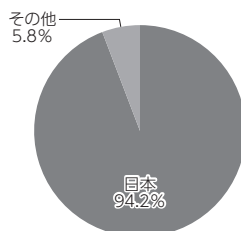
○組入上位ファンド

銘柄名	第9期末
	%
フランクリン・templton・オーストラリア債券ファンド(適格機関投資家専用)	74.3
アジア・ニュージーランド債券マザーファンド	16.2
三重県関連債券マザーファンド	3.7
組入銘柄数	3銘柄

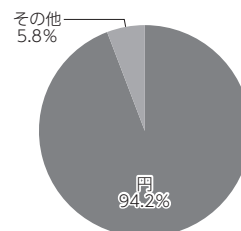
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては100%超となる場合があります。

(注) 国別配分につきましては発行国を表示しております。

(注) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

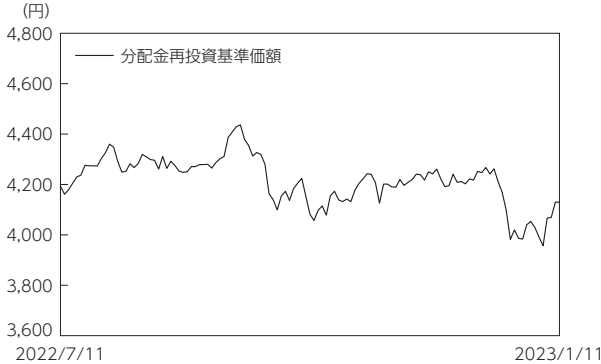
項目	第9期末
	2023年1月20日
純資産総額	110,033,092円
受益権総口数	100,211,772口
1万口当たり基準価額	10,980円

(注) 期中における追加設定元本額は65,986,057円、同解約元本額は0円です。

組入上位ファンドの概要

フランクリン・templton・オーストラリア債券ファンド (適格機関投資家専用)

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2022年7月12日～2023年1月11日)

項目	第226期～第231期	
	金額	比率
	円	%
(a) 信託報酬	11	0.255
(投信会社)	(5)	(0.111)
(販売会社)	(6)	(0.139)
(受託会社)	(0)	(0.006)
(b) 売買委託手数料	0	0.002
(先物・オプション)	(0)	(0.002)
(c) その他費用	0	0.006
(保管費用)	(0)	(0.004)
(監査費用)	(0)	(0.001)
(印刷等費用)	(0)	(0.001)
合計	11	0.263

作成期間中の平均基準価額は、4,175円です。

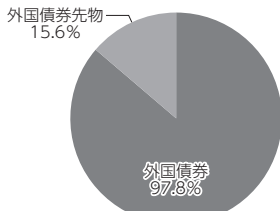
- (注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。
- (注) 作成期間中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を作成期間中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【組入上位10銘柄】

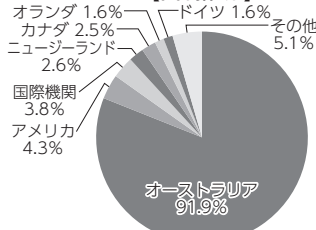
(2023年1月11日現在)

銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1 オーストラリア国債(3年)2023.3限月	債券先物(売建)	オーストラリアドル	オーストラリア	8.0%
2 オーストラリア国債(10年)2023.3限月	債券先物(買建)	オーストラリアドル	オーストラリア	7.6%
3 AUSTRALIAN GOVT 2.75% 2035/6/21	国債証券	オーストラリアドル	オーストラリア	3.0%
4 AUSTRALIAN GOVT 4.5% 2033/4/21	国債証券	オーストラリアドル	オーストラリア	2.3%
5 AUSTRALIAN GOVT 2.75% 2041/5/21	国債証券	オーストラリアドル	オーストラリア	2.3%
6 TREASURY CORP VICTORIA 3% 2028/10/20	地方債証券	オーストラリアドル	オーストラリア	2.3%
7 NEW S WALES TREASURY 2% 2031/3/20	地方債証券	オーストラリアドル	オーストラリア	1.5%
8 AUSTRALIAN GOVT 3.75% 2037/4/21	国債証券	オーストラリアドル	オーストラリア	1.4%
9 TREASURY CORP VICTORIA 5.5% 2026/11/17	地方債証券	オーストラリアドル	オーストラリア	1.3%
10 QUEENSLAND TREASURY 2.75% 2027/8/20	地方債証券	オーストラリアドル	オーストラリア	1.3%
組入銘柄数		284銘柄		

【資産別配分】



【国別配分】



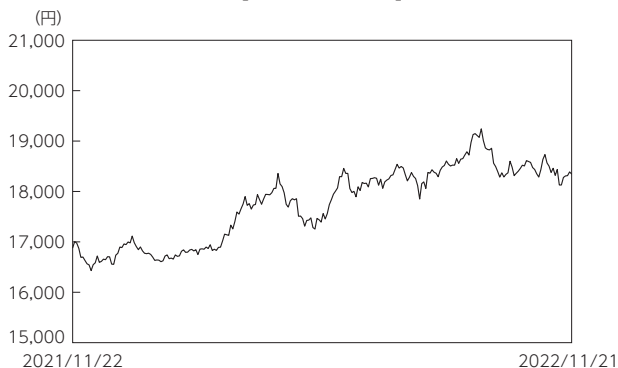
【通貨別配分】



- (注) 比率は組入資産(現金等を除く)の当ファンドの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては100%超となる場合があります。
- (注) 国(地域)および国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。
- (注) 先物の比率は絶対値ベースで記載しております。
- (注) 通貨別配分は組入資産(現金等を除く)を通貨で区分したものであり、通貨変動に伴うファンドの価格変動リスクと異なることがあります。
- (注) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

アジア・ニュージーランド債券マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2021年11月23日～2022年11月21日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
(a) そ の 他 費 用	12	0.068
(保 管 費 用)	(12)	(0.068)
(そ の 他)	(0)	(0.001)
合 計	12	0.068

期中の平均基準価額は、17,731円です。

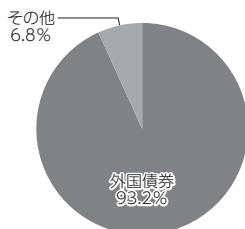
- (注) 上記項目の概要につきましては、運用報告書(全体版)をご参照ください。
(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【組入上位10銘柄】

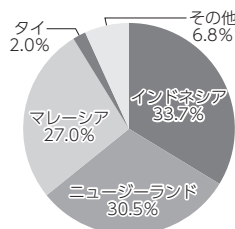
(2022年11月21日現在)

	銘 柄 名	業 種 / 種 別 等	通 貨	国 (地 域)	比 率
1	NEW ZEALAND GVT 2	国債証券	ニュージーランドドル	ニュージーランド	9.9%
2	INDONESIA GOV'T 6.5	国債証券	インドネシアルピア	インドネシア	8.8
3	INDONESIA GOV'T 7	国債証券	インドネシアルピア	インドネシア	8.2
4	NEW ZEALAND GVT 3	国債証券	ニュージーランドドル	ニュージーランド	7.3
5	MALAYSIA GOVT 3.9	国債証券	マレーシアリングgit	マレーシア	7.3
6	MALAYSIA GOVT 2.632	国債証券	マレーシアリングgit	マレーシア	7.2
7	NEW ZEALAND GVT 2.75	国債証券	ニュージーランドドル	ニュージーランド	6.6
8	INDONESIA GOV'T 6.25	国債証券	インドネシアルピア	インドネシア	5.9
9	NEW ZEALAND GVT 5.5	国債証券	ニュージーランドドル	ニュージーランド	5.3
10	INDONESIA GOV'T 8.125	国債証券	インドネシアルピア	インドネシア	4.9
	組入銘柄数		20銘柄		

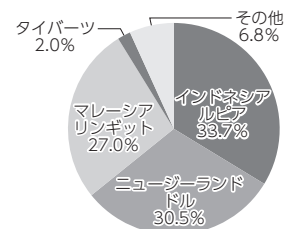
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては100%超となる場合があります。

(注) 国(地域)および国別配分につきましては発行国を表示しております。通貨別配分につきましては、組入債券の通貨別比率を表示しております。

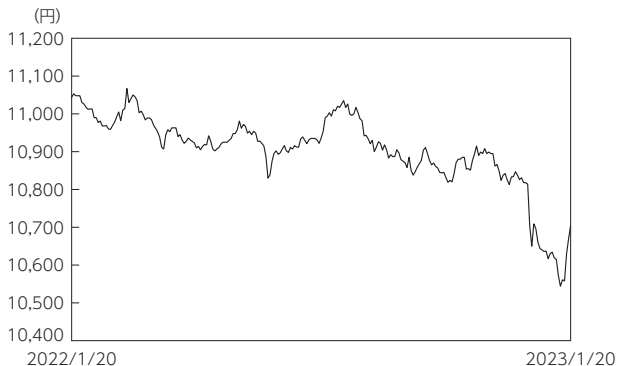
(注) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は、運用報告書(全体版)をご覧ください。

三重県関連債券マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2022年1月21日～2023年1月20日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
(a) そ の 他 費 用 (そ の 他)	0 (0)	0.000 (0.000)
合 計	0	0.000

期中の平均基準価額は、10,910円です。

(注) 上記項目の概要につきましては、運用報告書(全体版)をご参照ください。
 (注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

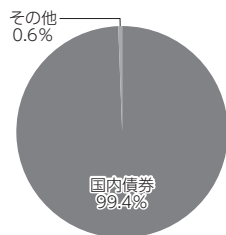
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【組入上位10銘柄】

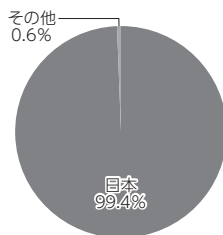
(2023年1月20日現在)

	銘 柄 名	業 種 / 種 別 等	通 貨	国 (地 域)	比 率
1	令和2年度第1回三重県公募債	地方債証券	円	日本	99.4%
2	—	—	—	—	—
3	—	—	—	—	—
4	—	—	—	—	—
5	—	—	—	—	—
6	—	—	—	—	—
7	—	—	—	—	—
8	—	—	—	—	—
9	—	—	—	—	—
10	—	—	—	—	—
組入銘柄数			1銘柄		

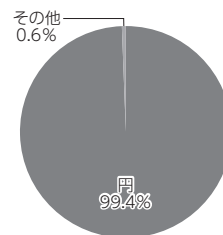
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては100%超となる場合があります。

(注) 国(地域)および国別配分につきましては発行国を表示しております。

(注) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は、運用報告書(全体版)をご覧ください。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

○東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社に帰属します。

○MSCI – KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI – KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○NOMURA – BPI 国債

NOMURA – BPI 国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA – BPI 国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

○FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE 世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。